

# 福沢諭吉の信念胸に

第6部 陶磁器を世界へ 〈2〉

## 時流の先へ

中部財界ものがたり

二つの波止場から小舟が

出入りし、沖合に止まった

大型蒸気船に荷物を運んで

いく。一八五九(安政六)

年。黒船が来航して日米修

好通商条約が結ばれ、開港

された横浜港。江戸で売る

洋風雑貨を仕入れるため

港を訪れていた二十歳の森

村市左衛門は、知人の米国

人貿易商ユージン・バン・

リードが金の小判を箱に詰

め込んでいるのを見つけ

た。

「その箱をどうするの

か」。市左衛門が問うと、

リードはにやりとして言

う。「日本では何も買うも

のがないから、小判や銀を

持っていくしかない。しか

し日本の金は交換比率がよ

く、品物よりも利益が上

るんだ」

当時、海外の金と銀の交

換比率が一对十五だったの

に対し、日本では一对五と

金が安かった。貿易商は日

本から金を持ち出し、海外

で交換するだけで巨万の富

を築ける。この年だけで五

十万両の小判が海外に流出

した。うれしそうに小判を

持ち帰るリードを見て、

「このままでは将来、日本

から小判がなくなってしまう

う」と市左衛門は不安に駆

られた。

御用商人として江戸にあ

る中津藩家老邸に出入りし

ていた市左衛門はすぐに、

中津藩士で蘭学塾を主宰し

ていた福沢諭吉に相談す

る。この時のやりとりは、

市左衛門の講演録「困之

礎」などに残る。

「国を守るには、どうし

たらいいでしょうか」。市

左衛門はさすがのように尋ね

る。福沢は通商国家として

栄える英国を例に挙げて説

く。「国の独立を保つ根本

は、貿易を盛んにして国を

富ませることにある。商人

が国の中心にならないと、

国は栄えない」。市左衛門

とは裏腹に、輸出品の仕入

る。この時のやりとりは、

市左衛門の講演録「困之

礎」などに残る。

「国を守るには、どうし

たらいいでしょうか」。市

左衛門はさすがのように尋ね

る。福沢は通商国家として

栄える英国を例に挙げて説

く。「国の独立を保つ根本

は、貿易を盛んにして国を

富ませることにある。商人

が国の中心にならないと、

国は栄えない」。市左衛門

とは裏腹に、輸出品の仕入

は「おれも男だ。福沢先生

が言われるなら、輸出貿易

で外国へ出た金を取り返

す」と決意する。鎖国が終

わり、海外の貿易商が自由

に立ち回ることへの危機感

と、海外に精通した福沢の

言葉が、市左衛門の気持ち

に火を付けた。

やがて米ニューヨークに

弟・豊とともに「森村ブラ

ザーズ」を開くと、市左衛

門は輸出する雑貨を仕入

れるため名古屋や神戸、大

阪の古道具屋を巡る。華々

しい外国貿易のイメージ

とは裏腹に、輸出品の仕入

る。この時のやりとりは、

市左衛門の講演録「困之

礎」などに残る。

「国を守るには、どうし

たらいいでしょうか」。市

左衛門はさすがのように尋ね

る。福沢は通商国家として

栄える英国を例に挙げて説

く。「国の独立を保つ根本

は、貿易を盛んにして国を

富ませることにある。商人

が国の中心にならないと、

国は栄えない」。市左衛門

とは裏腹に、輸出品の仕入

る。この時のやりとりは、

## 国の独立 貿易で守る

れは地道な作業の連続だ  
った。蒔絵や印籠、小皿  
。米国人が好みそうなも  
のを選ぶ。安く買うため、  
わざと貧乏に見えるよう  
に、木綿の服に風呂敷包み  
とてんびん棒を担いで歩き  
回り、商品の箱詰めもし  
た。

当時、輸出の振興を狙う  
政府の補助金を受けて派手  
に買い回る貿易商社も現れ  
始めたが、市左衛門は補助  
金をもらわなかった。  
その決心を支えたのは  
「一国の独立は結局、個人  
の独立にかかっている」と  
繰り返して訴えた福沢だっ  
た。市左衛門は後に「福沢  
先生と付き合ってからます  
ますこの決心を固くした」  
と振り返る。

市左衛門の弟、豊のひ孫  
で、森村商事(旧森村組)  
社長の森村裕介(五七)は「森  
村組にとって福沢諭吉の存  
在は大きかった。市左衛門  
の貿易への志と、常に精神  
的な重圧を背負う独立心を  
養っていくことができた」  
と話す。

(文中敬称略)



### 森村市左衛門と森村豊

市左衛門は1839

(天保10)年、江戸・京橋の商家に生ま

れる。武具商人などを経て、76年に貿易

会社の森村組を設立。81年に陶磁器の本

格輸出を始める。82年に日本銀行監事に任命され

る。1904年に日本陶器(現ノリタケカンパニ

ーリミテド)を設立、09年に森村組を改組し代表

者である総長に就任。15年に叙従五位男爵を受け

る。19年に81歳で死去。

豊は1854(安政元)年、市左衛門の異母弟

として生まれ、67年に福沢諭吉の弟英之助の書生

となり、英語を習う。71年に慶応義塾に入塾し、

74年に卒業。76年に渡米、イーストマン商業学校  
で商慣習などを学んだ後、78年にニューヨークに  
森村ブラザーズを開く。82年に森村ブラザーズを  
小売業から卸売業に転換。99年に45歳で死去。



晩年の森村市左衛門ノリタケカンパニーリミテド提供